

## 五、結 論

(一) 稻の水中培養に於て窒素源としてアムモニヤ塩或は硝酸塩のみを用ふるも其培養液の反應を適宜に保つならば、よく生育し完全に結實させる事が出来る。而して兩塩を混合せるものでは常に極めて良好に成育させ得る。

(二) アムモニヤ塩を窒素源とせる場合は全生育期を通じて營養器官の生長が促進せられ、硝酸塩の夫に著しく勝る。然れ共出穂期以後即ち種實の成生に對しては必ずしもアムモニヤ塩が優つてゐることは限らぬ、寧ろ種實の成熟乃至充實度に就ては硝酸塩が勝る様な傾向さへ見ゆる。

## あぶらな屬作物品種の染色體數

農林省園藝試驗場  
同 永井 計三  
笹岡 恒太郎

著者の一人永井が數年來あぶらな屬作物の採種研究に従事してゐるが、同屬の分類が不完全である爲めに種々の困難に遇つたのに鑑み、右研究の傍同屬分類法を考究するとこした。茲に報告した染色體數の調査も其一助として當場栽培の材料に就き一九二七年以降に行はれたものである。染色體數の決定は花粉母細胞に就て主として Belling 氏の醋酸カルミン法及 Heitz 氏の醋酸カルミン法に依つてなされたが時々してバラフィン法 (Carnoy 氏液又は Nawaschin 氏液 固定 Heidenhain 氏鐵明礬ヘマトキシリン染色) も用ひられた。固定の結果や染色體の行動も従來の發表と略同一であ

あぶらな屬作物品種の染色體數

つた。尚 H. H. H. 氏の方法では體染色体も染つたが参考に供するに止めた。  
成績は次表の如くである。

あぶらな屬作物品種の染色體數

種 物 名	染色體數	調査品種數
<i>Brassica nigra</i> , Koch	8	5
<i>B. oleracea</i> , L. var. <i>capitata</i> , L.	9	3
var. <i>acephala</i> , DC.	9	4
var. <i>gemmitifera</i> , Zenker	9	1
var. <i>botrytis</i> , L.	9	1
var. <i>gongylodes</i> , L.	9	1
<i>B. campestris</i> , L.	10	1
<i>B. pkitensis</i> , Kupr.	10	17
<i>B. chinensis</i> , L.	10	13

<u>B. narinosa</u> , Bailey	10	1
<u>B. rapa</u> , L.	10	14
<u>B. niposinica</u> , Bailey	10	5
<u>B. juncea</u> , (Oss.)	18	12
<u>var. crispifolia</u> , Bailey	18	4
<u>B. napiformis</u> , Bailey	18	3
<u>B. Napus</u> , L. <u>var. oleifera</u> , DC.	19	7
<u>var. Napobrassica</u> , Reichh.	19	3
<u>B. arvensis</u> , Rabh.	9	2
<u>B. alba</u> , Rabh.	12	4

附記 曩に永井は大朝鮮及ルタバガはヨロシならんを報じたが前表に見るが如く誤なる故茲に訂正する。